

新技術開発探訪

新技術活用促進を目指した取り組み ～新技術講習会の開催～

国土交通省 中部地方整備局 企画部 施工企画課 課長補佐 田中 昌次

1. はじめに

国土交通省では、有用な技術の積極的な活用を推進することで公共事業のコスト縮減や品質向上を図り、新技術のさらなる改善を促進するための仕組みとして平成13年度からNETIS（新技術情報提供システム。以下、「NETIS」という）の運用を開始し、平成18年度からは国土交通省の現場で活用した評価結果（事後評価情報）についても申請情報と併せて公表しています。平成30年8月中旬現在において申請情報約2,970件、評価情報約870件が登録されており、全国の建設工事等での活用が図られているところです。

平成18年度の「公共工事等における新技術活用システム」運用開始時の目標であった“新技術活用率30%”は平成19年度以降既に達成し、平成29年度時点では42.6%となっています。

一方で、新技術活用件数の多くが施工者希望型であり、発注者が現場条件や課題を考慮したうえで現場に適する工法や材料、技術を選定した発注者指定型の活用はそれほど多くないのが現状です。

そこで、発注者が新技術をより広く検討・活用できるように「公共工事等における新技術活用システム」の概要と、NETISの使い方について知っていただくための新技術講習会を開催することとしました。

2. 講習会の内容と対象者

新技術に関する研修などは過去から実施されていましたが、その内容は「公共工事等における新技術活用システム」の紹介が主たるものであり、すぐに自身でNETISを理解し利用できる内容ではありません。

また、発注担当者の多くは設計積算に追われ、NETISに触れる時間さえ確保できない状況であり、講習会では係長層以下の職員に十分に理解してもらえる内容にする必要があると考えました。

新技術講習会は企画部施工企画課と中部技術事務所で実施することとし、議論の結果、若手職員を中心としつつ、設計段階、発注段階、監督・検査段階の内容が理解できるようにテキストを作成し、プログラムにはNETIS実演も加えることとしました。

新技術講習会各項目の主な内容は以下のとおりです（図-1）。

① なぜ新技術を活用するの？

建設産業の現状と課題など、新技術を活用する狙いや目的など

② なぜ発注者指定型新技術活用に取り組むの？

発注者指定型で工事品質や生産性に関する新技術の活用を促進し、技術開発を活性化して工事品質や生産性につなげることなど

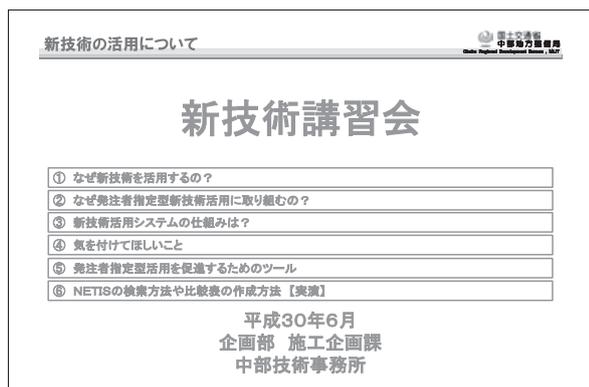


図-1 新技術講習会テキスト表紙

③ 新技術活用システムの仕組みは？

新技術の登録，申請・登録，活用，評価の流れ，新技術活用の種類，掲載期間，現場での作成書類など

④ 気を付けてほしいこと

施工者希望型と発注者指定型での違い，忘れてはいけない作成書類など

⑤ 発注者指定型活用を促進するためのツール

「推奨・準推奨技術」，「活用促進技術」，「包括技術（全国で過去5年間に発注者指定型で活用された技術を整理して類似する技術をまとめたもの）」の概要集の紹介と利用方法など

⑥ NETISの検索方法や比較表の作成方法【実演】

パソコンを使ってNETISで新技術を検索する方法や，絞り込んだ技術の比較表を作成するなどの実演（参加者体験）

新技術講習会は，NETISに少しでも触れていただいて，普段の業務に生かしてもらえよう実演に十分な時間を割いて実施しました。

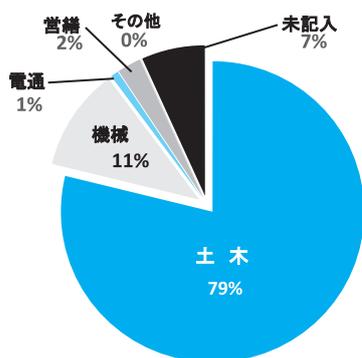


図-2 職種

また，この講習会が参加者にとって有意義なものであったかを検証し，今後開催する講習会の内容等に役立てるためにアンケート調査を行いました。

3. アンケートの取りまとめと結果

今回の新技術講習会は，愛知，岐阜，三重，静岡，長野の各県代表事務所で開催し，延べ参加人数は118名となりました（写真-1）。

参加者のアンケートをまとめた結果は以下のとおりです。

- ・参加者の約8割が土木職となった（図-2）。
- ・幅広い層の参加者であったが，係長層以下の職員は約6割となり概ね狙いどおりとなった（図-3）。
- ・新技術活用の経験については約8割が“ある”となり（図-4），経験者のうち工事発注と監督で約7割となった（図-5）。



写真-1 新技術講習会の様子

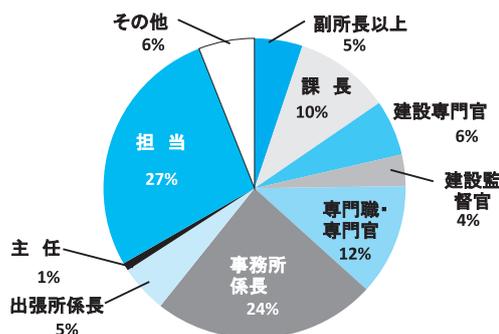


図-3 役職

- ・この講習会で新技術を“理解した”と“よく理解した”を合わせると97%になった(図-6)。
 - ・この講習会に参加して“NETISを操作してみようと思った”が約9割となった(図-7)。
- また，“思わない”の内訳として「今の業務に必要な」、「時間がない」、「常々操作してい

る」などが約8割となった(図-8)。

- ・“発注者指定型の設計段階からの取り組みが重要だと思った”が95%となった(図-9)。
- ・今後の講習会開催希望者が約9割強となった(図-10)。

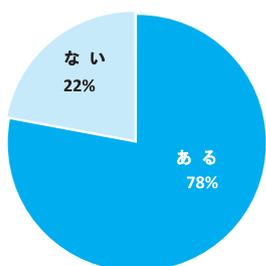


図-4 新技術活用の経験

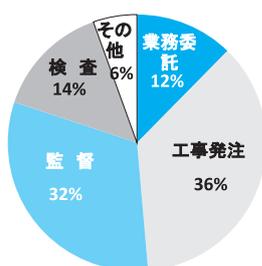


図-5 新技術に関わった内容

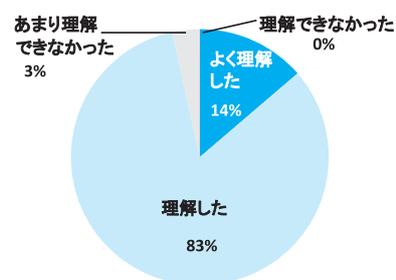


図-6 新技術を理解できたか

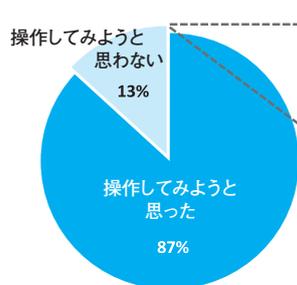


図-7 NETISの操作について

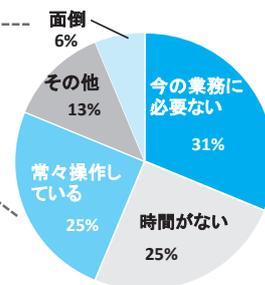


図-8 操作しようと思わない理由

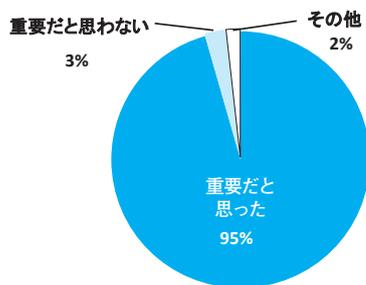


図-9 発注者指定型の設計段階からの取り組み

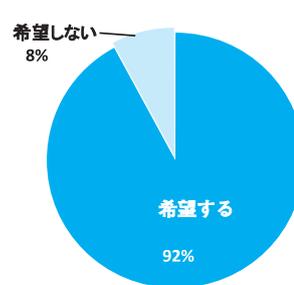


図-10 今後の講習会開催希望

4. まとめ

今回の講習会受講者のほとんどが“新技術を理解した”, “発注者指定型の設計段階からの取り組みが重要”と回答したことなどから, NETISの内容やその運用が概ね理解されたのではないかと思います。

この取り組みにより, NETISの内容を多くの

方に理解していただくとともに, その利活用も必要であると知っていただけたことは, 今後の新技術活用促進に期待できるものと感じました。

次回以降の講習会に役立てることができるよう, アンケートに記載された個々の意見を整理してテキストの内容をブラッシュアップすることとし, 今後とも新技術活用促進にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。